



## 統合設定の管理

この章は、次の内容で構成されています。

- 「設定管理データベースの統合」(P.5-1)
- 「計測データのエクスポート」(P.5-2)
- 「変更記録」(P.5-2)
- 「システム ログ」(P.5-3)
- 「ストレージと OVF のアップロード」(P.5-4)
- 「多言語のサポート」(P.5-4)



(注) 当該アプライアンスにログインしてからでないと、以下の手順はいずれも実行できません。

## 設定管理データベースの統合

設定管理データベース (CMDB) は、システムの変化を追跡、管理するために使用されます。通常 CMDB には、仮想マシン (VM)、サービス リクエスト、グループなどのリソースに対して実行されるイベントのタイプ (追加、削除、変更のいずれか) が表示されます。

### CMDB 統合の設定

**ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[統合]の順に選択します。

**ステップ 2** [CMDB 統合設定] タブを選択し、以下のフィールドを入力します。

名前	説明
[FTP サーバにエクスポート] チェックボックス	オンにすると、変更記録が FTP サーバにエクスポートされます。
[エクスポート形式] ドロップダウンリスト	エクスポート形式 (CSV または XML) を選択します。
[FTP サーバ] フィールド	FTP サーバのアドレス。
[FTP ポート] フィールド	FTP サーバ ポート番号。
[FTP ユーザ] フィールド	FTP ユーザ ID。

名前	説明
[FTP パスワード] フィールド	FTP ユーザ パスワード。
[FTP エクスポート 頻度] ドロップダウン リスト	変更記録を FTP サーバにエクスポートする頻度を選択します。
[FTP ファイル名] フィールド	エクスポートされる変更記録のファイル名。以下の変数を使用して、ターゲット FTP サーバにファイルがエクスポートされるたびに新しいファイル名を作成できます。 <b>MONTH、WEEK、DAY、YEAR、HOUR、MIN、SEC、MLLIS</b> 例：XYZ-\$DAY-\$HOUR-\$MIN-\$SEC
[FTP のテスト] チェックボックス	オンにすると、FTP の設定がテストされます。

**ステップ 3** [保存] をクリックします。

## 計測データのエクスポート

計測データのエクスポートを設定すると、VM のリソース使用率やリソース アカウンティングの詳細などの傾向データをサーバにエクスポートできます。

### 計測データのエクスポートの設定

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理] > [統合] の順に選択します。
- ステップ 2** [計測データのエクスポートの設定] タブを選択し、CMDB の設定に使用するフィールドを入力します。
- ステップ 3** [保存] をクリックします。

## 変更記録

[レコードの変更] には、現在のリソースと、すべてのリソースの変更が表示されます。このリソースには、VM、サービス リクエスト、グループなどが含まれます。

### 変更記録の確認

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理] > [統合] の順に選択します。
- ステップ 2** [レコードの変更] タブを選択します。

(注) レコードは最大 1000 件表示できます。

## システム ログ

システム ログ (syslog) 情報は、設定されたサーバに転送できます。各システム メッセージには、重大度と重大度の最小値レベルが関連付けられます。

## システム ログの設定

**ステップ 1** メニュー バーで、[管理] > [統合] の順に選択します。

**ステップ 2** [syslog] タブを選択します。

**ステップ 3** [Syslog 転送の有効化] チェックボックスをオンにして、以下のサーバ フィールドを入力します。

フィールド	説明
[Syslog 転送の有効化] チェックボックス	オンにすると、syslog が有効になります。
[重大度の最小値] ドロップダウン リスト	ここで選択した最小値よりも重大度の低いシステム メッセージはフィルタリングされ、syslog サーバに転送されません。
<b>プライマリ syslog サーバ</b>	
[サーバのアドレス] フィールド	プライマリ サーバのアドレス。
[プロトコル] ドロップダウン リスト	プロトコル ( <b>UDP</b> または <b>TCP</b> ) を選択します。
[ポート] フィールド	ポート番号。
[syslog メッセージ フォーマット] ドロップダウン リスト	メッセージの形式 ( <b>XML</b> または <b>プレーン テキスト</b> ) を選択します。
<b>セカンダリ syslog サーバ</b>	
[サーバのアドレス] フィールド	セカンダリ サーバのアドレス。
[プロトコル] ドロップダウン リスト	プロトコル ( <b>UDP</b> または <b>TCP</b> ) を選択します。
[ポート] フィールド	ポート番号。
[syslog メッセージ フォーマット] ドロップダウン リスト	メッセージの形式 ( <b>XML</b> または <b>プレーン テキスト</b> ) を選択します。

**ステップ 4** [保存] をクリックします。

## ストレージと OVF のアップロード

管理者、グループ管理者、エンド ユーザのいずれかによってアップロードされるファイルの保存場所は設定可能です。アップロードされたファイルは、ローカルに保存することも、外部の NFS 共有マウント ポイントに保存されるように設定することもできます。Network File System (NFS) のロケーションは管理者が設定します。

管理者、グループ管理者、エンド ユーザ (サービス エンド ユーザ ポータル) はいずれも、ファイルのアップロード機能を使用して、ローカルストレージまたは外部の NFS 共有マウント ポイントに Open Virtualization Format (OVF) ファイルをアップロードできます。NFS のロケーションは管理者が設定します。詳細については、『[OVF Upload Guide](#)』を参照してください。

## 多言語のサポート

Cisco UCS Director は、表示および入力の両方で多言語をサポートします。2 バイト文字セットを利用するすべての言語がサポートされています。あらゆる入力フィールドに、ユーザが選択した言語でテキストを入力できます。